

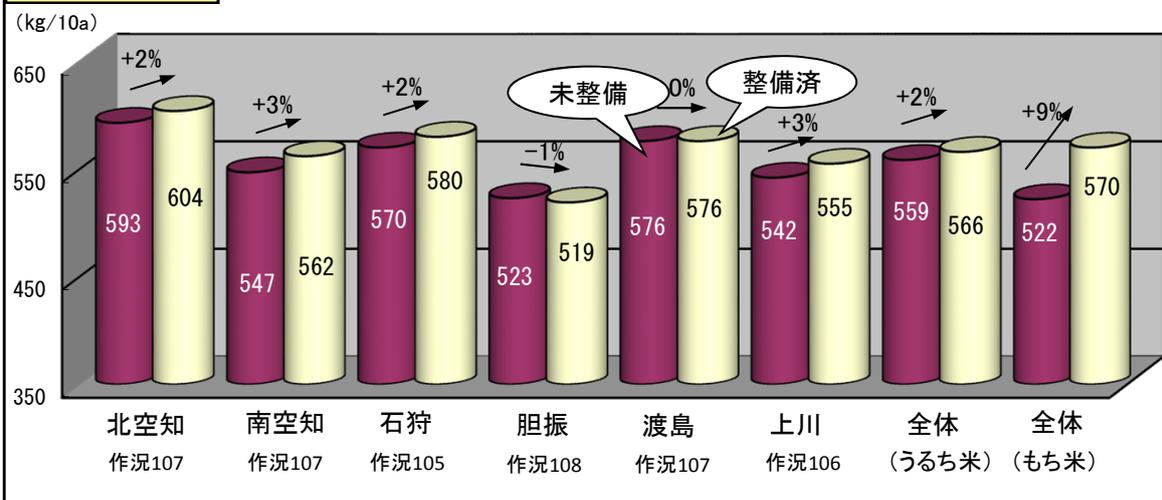
平成24年度基盤整備の有効性に関する調査報告の概要

- 平成22、23年に引き続き全道449ほ場で主要な作物を調査（水稲、小麦、ばれいしょ、てんさい、大豆、牧草、その他）
- 作物の収量、品質のほか、防除、収穫など作業性についても調査

◇水稲（収量）

- うるち米では、「整備済みほ場」と「未整備ほ場」の間で大きな違いは見られなかった。
- もち米では、「未整備ほ場」で不稔の割合が高い地域があったことから、収量は「整備済みほ場」が「未整備ほ場」を上回った。

収量確保の効果

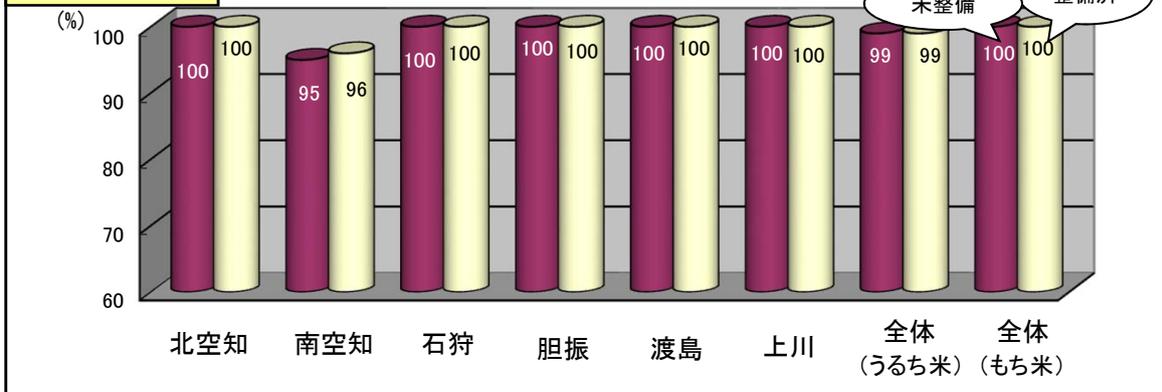


■ 整備済みほ場と未整備ほ場との収量比較

◇水稲（品質）

- 品質については、全体的に差がみられなかった。

品質確保の効果

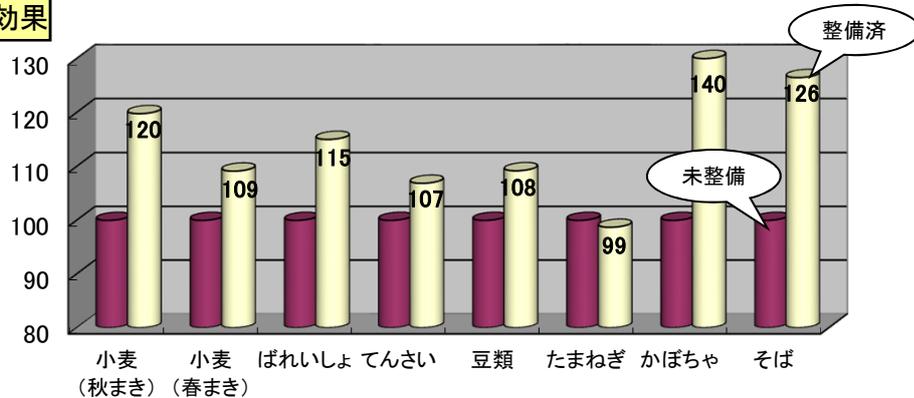


■ 振興局別1等米割合

◇ 畑作物

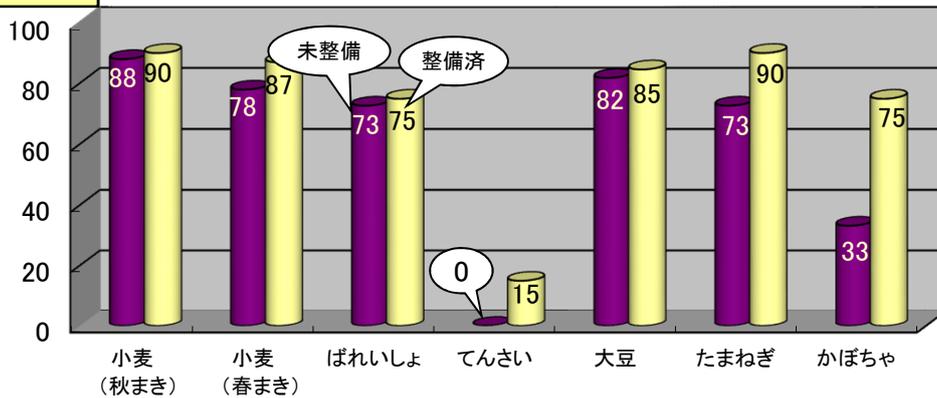
- ・ 暗きょ排水の整備によって排水性を改善したほ場では、湿害の影響を軽減し、品質の低下が軽減されたことに加えて、「未整備ほ場」を上回る収量が確保された。

収量確保の効果



■ 整備済みほ場と未整備ほ場との収量比較(未整備を100として計算)

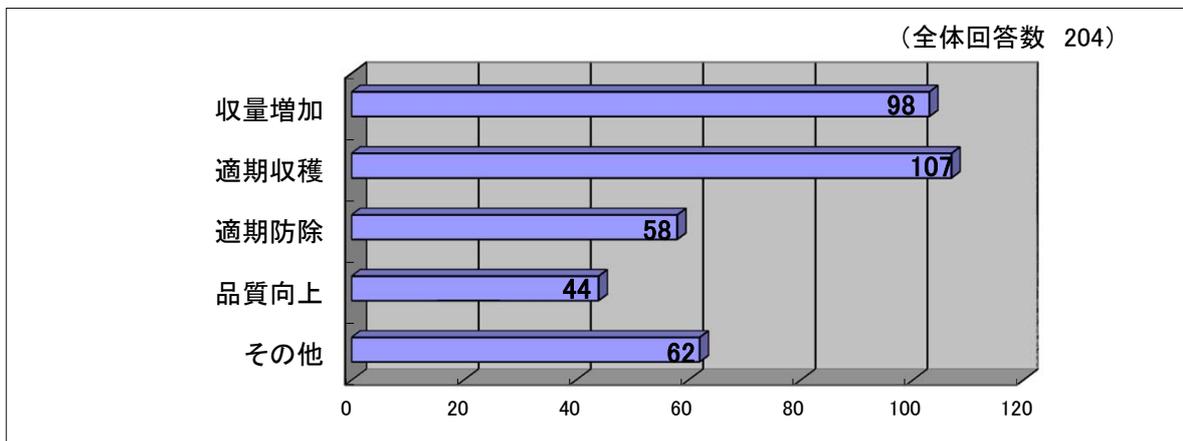
品質確保の効果



■ 品質の低下がなかったほ場の割合

○ 暗きょ排水に対する評価

- ・ 暗きょ排水の整備により余剰水が排除され、適期の防除や収穫が実施できたとともに、収量・品質が確保できたと評価されている。



■ 要因別評価の回答数(複数回答)